

兵庫県産蝶類目録(4)

山本 広一・吉阪 道雄

筆者らは1958年以來3回にわたって、県下で採集した112種の蝶を述べたが、さらに4種を獲たので追加したいと思う。

I セセリチョウ科 HESPERIIDAE

17. キバネセセリ

Bibasis aquilina chrysaelia BUTLER

滋賀・奈良以東に知られた本種は、鳥取県大山にもいるので、やがては本県からも見つかるものと予想していた。ところが、1960年、中尾淳三氏によって養父郡大屋町若杉付近くで1♂が採集され、その標本は山本に贈られた。中尾氏はそのときのもようを、同伴した讓尾勲君とともに説明して、他にもなお数頭見たといっている。若杉は播磨と但馬をつなぐ若杉峠(705m)を東北東に下った山間の村落で、カラスジミの珍種が採集された所である。その後、岡本清氏は多可・水上郡境の三国岳(855m)の北麓でも見たらしい話があることを語られており、ことによると県の脊梁山地の草原に案外いるのかもしれない。発生は年1回、他の地方での採集例からみて、7月下旬～8月上中旬に出現するものと思う。

1♂, 12/VII, 1960. 養父郡大屋町若杉
coll. J. Nakao, poss. H. Y.

IV シジミチョウ科 LYCAENIDAE

34. オナガシジミ *Araragi enthea* JANSON

中部山岳地帯に多く、従来は滋賀県が分布の南限とされていた。ところが、1855年8月、鳥取県日野郡下にも生息することがわかり、つづいて大山や岡山県の北部にも採集された。本県では、1964年7月30日、中尾淳三氏が養父郡大屋町西谷地区より杉が沢高原に向かう途中、クルマミの樹(オニグルミであろう)で2頭を見つけ、そのうちの1♂を採集した。8月1日、さらに同じ場所で1頭が目撃され、クルマミの稀でないこの地方には、今後さらに多くの個体が得られることと思う。この辺りは幾度となく中尾氏らによって調べられた所であり、しかも、このように発見の遅れたことは、蝶の出現期がおそく、局地性の著しいためであろう。発生は年1回、7月末から8月にかけて現われる。

1♂, 30/VII, 1964. 養父郡大屋町
coll. J. Nakao, poss. H. Y.

VIII タテハチョウ科 NYMPHALIDAE

28. メスアカムラサキ

Hypolimnas misippus LINNE

東洋熱帯区やアメリカ・アフリカの熱帯・亜熱帯に広く分布し、わが国では九州・四国をはじめ、太平洋沿いの数県下に発見され、青森がその北限となっている。県下では、1957年8月16日、山口福男氏が明石市北王子町で1♂を目撃した記録があり、1963年4月12日、岡村八郎氏は西宮市武田尾で1♂を、また、1964年7月23日、橋本知代三君は神戸市須磨旗振山頂で1♀を採集している。なお、県立兵庫高校の岡村はた教諭は、1937～8年の頃、西宮市で採集した学友の1♂を見たとのことである。

1♀, 23/VII, 1964. 神戸市須磨旗振山頂付近
coll. Ch. Hashimoto, poss. H. Y.

IX ジャノメチョウ科 SATYRIDAE

13. クロヒカゲモドキ

Lethe marginalis MOTULSKY

山地性の比較的珍しい種類であるが、八木典也(1960)は相生市矢野町に産するといひ、中国公一郎・吉阪道雄(1954)は、1950年8月16日、神戸市鈴蘭台で採集した1♀が、宝塚昆虫館に保存されていることを記している。しかし、最も確実な採集地は、大阪府境に近い川辺郡猪名川町付近(田中蕃:1960)で、最近山本が若林守男氏より頂いた同氏のメモによると、川西市東谷町(一庫・出合・山下=通称笹部間道・黒川=通称妙見新滝道)などに広く生息することが知られる。

1♂, 15/VII, 1960. 川西市東谷町
coll. Wakabayashi, poss. H. Y.

以上で、筆者らの所蔵する標本のリストは一応完結したが、なお入手しない偶産蝶や過去の記録種があるので、その真偽の問題は別として、一切の種類を掲げて簡単に説明し、参考に資したいと思う。(※印あるものは筆者らが直接標本に接して確認したものである)

I セセリチョウ科 HESPERIIDAE

1. アカセセリ [*Hesperia florinda* BUTLER]

古く神戸市の六甲山(加地早苗:1940)や、鴨越(高橋寿郎:1941)に採集された記録があり、しかも高橋氏は“普通に産す”と述べているので、近似種との同定誤りでないかと思う。なお、本種は中部地方と関東の一部に局地的に発生し、その個体数はかならずしも多いとはいえない。

2. チャマダラセセリ

Pyrgus maculatus BREMER et GREY

1935年7月下旬、加地早苗氏が六甲で採集した記録がある(加地早苗:1940)が、その後に採集例はない。本種は本州の中部から北海道に分布し、四国の高知県下にも発見されているが、個体数は少なく、本県の記録には疑問がある。

II シロチョウ科 PIERIDAE

1. メスシロキチョウ

[Ixias pyrene insignis] BUTLER

インド・ビルマ・マライ・南支・台湾などの東洋熱帯区に広く分布し、1929年、小林賢三氏が、同年6月下旬、西宮市で採集された笠原辰男氏の1♂にもとづいて報告したのが、わが国最初の記録である。おそらく、蛹か老熟幼虫が何かに付着して混れこみ、この付近で羽化したのであろう。その後、鹿児島(1937)と福岡(1953)の両県下からも採集されている。

2. *ギンモンウスキチョウ

Catopsilia pomona FABRICIUS

台湾・フィリピンその他の東洋熱帯に広く分布し、わが国では、鹿児島・大分・徳島・愛媛・兵庫・和歌山・神奈川の諸県で採集された記録がある。本県では、西宮市よりの2例(1958, 1960)と明石市よりの1例(1964)が知られている。

3. *ウラナミシロチョウ

Catopsilia pyranthe LINNE

フィリピンチョウで知られた本種は、南洋・ビルマ・インドなどの東洋熱帯はもちろん、アフリカ方面にまで広く分布し、わが国では福岡(1929)・宮崎(1931)・佐賀(1953)の各県下にかかなりの個体が発見されている。その後、県下でも1956年8月7日西宮市夙川上流で、甲陽学園中学部の大西俊和君が採集して(東正雄:1960)、本州よりの第1号記録をつくった。標本は、東氏が、夏の休暇明けに提出した大西君の作品中から発見したもので、氏は早速同君に採集当時のもようを質したが、大西君はそれほどの珍しい種類とも思っていなかっただけに詳細はわからないが、西宮市内で獲たことだけは間違い

ないと語っている。しかし、注目すべきものと思う。その後、山口県からも発見されている。

4. ヤマキチョウ

Gonepteryx rhamni maxima BUTLER

井口宗平(1907)はその目録中に *Gonepteryx rhamni* LINNE の名を挙げているが、本種はわが国の中部山岳地方より以西に生息しないものとされており、この辺りに僅かながらも発生するスジボソヤマキチョウの同定誤りと思われる。

III シジミチョウ科 LYCAENIDAE

1.* ムラサキツバメ

Narathura bazalus turbata BUTLER

九州と四国、それに山口・広島両県下に知られるが、大阪府にはまだ発見されない。しかし、京都府下にはかなりの生息地が報告されており、ことに桃山御陵は多産地として名高い。本県では、甚田竜太郎氏が“聞くところによれば兵庫農大の松浦役児氏がムラサキツバメを得ているらしい”と報告し(1953)、その後の山本義丸:兵庫県氷上郡昆虫目録(1958)には採集地篠山と甚田氏の名が記されている。しかし、いずれも詳しい採集月日の記載がなく、爾来この蝶は後を絶っていたが、最近明石市内で2頭採集されていることが判明した。その1つは1959年8月、北王子町で小林進君が採集したもので、個体はかなり破損しているが、他の1つは1959年10月4日、竹内崇郎氏が、大久保町江井か島の自宅で採った完全な♀である。竹内氏によると、その日は相当風が強く、蝶はこれを避けるかのように、庭のイチジクの葉蔭に静止していたという。この他、宝塚でも採集されている。

2. ヒメシジミ

[Plebejus argus micrargus] BUTLER

森本氏が六甲山麓で採集した“シジミテフ”(加地早苗:1940)をはじめ、神戸地方から報告された“シジミテフ”は、すべて本種と思われるが、その真偽は明らかでない。しかし、1955年、養父郡西谷村筏の堤防〔大屋町〕で獲られた1頭〔♀と推察する〕は、不幸にして確認できなかったが⁽¹⁾、1956年9月4日付採集者から山本に届けられた蝶のスケッチや説明書により、本種であることは想像に難くない。また、同氏は種の同定に、横山光夫:原色日本蝶類図鑑(1954, 保育社)を参照したが、斑紋の配列や色どり(裏面)が第50図版の北海道産ヒメシジミに最も近似していたといっている。この地方の蝶相は鳥取県大山あたりと共通するところが多く、本種の

(1) 標本は中尾淳三氏のご好意によって、山本に贈られるはずであったが、展翅すみのため、郵送中の破損をおそれ、中尾氏のもとに保管されていた。ところが虫害に侵され、1962年、山本が同氏を訪れたときにはすでに破棄されてしまっていた。

生息もあえて不審ではない。しかし、その後獲られないのは、大山の場合と同様、この蝶に局地性の著しいためであるかもしれない。

3. ミヤマカラスシジミ *Strymonidia mera* JANSON

中部の山地や鳥取県大山あたりに見かけるが、九州・四国には少なく、近畿からは知られない。本県では、かつて神戸市鳥原付近で採集されたことが、谷口和義(1938)に見えるが、採集者や採集月日についての詳しい記載がなく、その真似は疑わしい。

4. ルーミスシジミ

Panchala ganesa loomisi PRYER

近畿では、奈良県三笠山(天然記念物指定)と和歌山県那智山・三重県伊勢神宮神苑に知られるだけである。1949年8月10日、今本哲男(1950)は、本種を姫路市書写山に発見したと報じ、その個体も“多数生息する”と述べている。書写山は標高363m、山頂に西国三十三所の霊場円教寺があり、境内こそ古い針葉・広葉の樹木がおい茂り、蝶の食草となるウラジロガシもあるが、一帯のマツ山である。近年、山頂まで索道が開設され、採集に訪れる者も少なくないが、その後採集された話がない。

Ⅶ マタラチョウ科 DANALIDAE

1. スジグロカバマダラ *Salatura genutia* CRAMER

台湾・南支・フィリピン・マライ・インド・オーストラリアなど、南方の熱帯や亜熱帯に多く、わが国では、薩南・奄美の島々に普通である。九州・四国をはじめ、京都・愛知・静岡・神奈川・東京(伊豆大島)などの太平洋沿いの地方には、かなりの個体が報告されているが、本県では宮本裕三氏が、1931年8月26日、西宮市森見字木津山で採集した1例があるにすぎない(加藤正世:1938;加地早苗:1940)。

X タテハチョウ科 NYMPHALIDAE

1. *キベリタテハ

Nymphalis antiopa asopos FRUHSTORFER

本州中部より以東の山地に広く分布し、本県では珍しい北方系の迷蝶である。かつては、神戸市の裏山にいた(高橋寿郎:1941;田中保:1942)というが、現在では見られない。筆者の確認した標本は、1956年7月26日、氷上郡市島町上竹田(標高200m許)で採集したもので、山本義丸(1958)にその写真が掲載されている。山本氏によると、標本が氏のもとにもたらされたときには、まだ新鮮な完全品であった由で、おそらく採集地の近くで羽化したものと思われる。その後、洲本市三熊山頂からも1頭が目撃されている。

2. *リュウキュウムラサキ

Hypolimnas bolina palauensis FRUHSTORFER

1957年10月12日、田中蕃氏によって採集されたリュウキュウムラサキは、従来わが国で発見された台湾や琉球型の ssp. *philippensis* BUTLER ではなく、本邦未記録のパラオ亜種 ssp. *palauensis* FRUHSTORFER か、またはそれに近い型のもたとされている。台風によって直接南方から運ばれたものとして、当時の台風経路を詳細に調べたが、この年には不思議と太平洋沿いの三重・静岡・神奈川県下にも発見されており、注目すべきことと思う。田中氏の私信や(田中蕃:1957)によると、氏はこの日、自宅の縁側に休息中、3mばかり離れた庭木の根もとにふらふらと飛ぶ蝶を認め、早速網を持ちだして、近くの神社の境内に待ちうけ、コスモスの花に舞い降りてきたのを捕えたのだという。その標本は1960年、大阪高島屋で開かれた世界の蝶展に出品されたことがあり、美しい完全な♀である。

3. フオタテハモドキ *Precis orithya* LINNE

インド・マラヤ・台湾などの東洋熱帯に広く分布し、わが国では種子島以南に土着するものと考えられている。九州の南部や西部に採集例が多く、四国の高知や徳島県下からも報告され、島根・鳥取県にもその例がある。本県では、1937年8月、塚本信雄君(当時甲南高校尋常科生徒)が明石郡垂水町〔神戸市〕で採集した(谷口和義:1938)ことがあり、現在では、これがわが国で発見された東北限となっている。

4. コヒョウモンモドキ

Melicta ambigua nippona BUTLER

1910年、井口宗平氏が佐用郡下から報告しているが、本種は中部地方の山地帯に生息し、近畿には知られない。したがって、本県の中央山地の草原に多いウスイロヒョウモンモドキの同定誤りと思う。なお、ウスイロヒョウモンモドキは、1956年6月22日、井口氏の住所である佐用郡久崎〔上月町〕から、田中蕃氏によって採集されている。

5. ギンボンシヒョウモン

Mesoacidalia charlotta fortuna JANSON

中部山地より以北にすむ寒地性の種類であるが、県下にも神戸市付近(須磨付近、北村達明:1935;岡本、実川佐太郎:1938;六甲山麓、加地早苗:1940など)水ノ山(遠藤勉:1960)に記録がある。これを朝鮮系の残存種と考えることは興味ある問題である(横山光夫:1954)が、中国山地の高峯氷ノ山の場合とはともかく、阪神地方に果して本種がいたかは疑わしい。山本は本年県下の方々に開かれた昆虫展を巡って、ウラギンヒョウモンやオウラギンヒョウモンなどがあまりにも同定誤りの多いのに、何だか示唆される思いがした。

6. オオミスジ

Neptis alwina kampferi DE L' ORZA

谷口和義(1938)は“六甲に極めて稀に産す。著者は昨年〔1937〕6月1頭を発見したのみ”と報告し、吉阪和親(1936)も灘地方に記録し、また、加地早苗(1940)にも見えるが、本種は山地性のもので、6月頃より現われ、滋賀県伊吹山付近がわが国での分布の南限と考えられている。

7. (ウスコムラサキ)

赤井順孝(1934)は“甲子園に稀ならず”と記しているが、詳細な説明もなく、何の種を意味するか明らかでない。

IX ジャノメチョウ科 SATYRIDAE

1. オオヒカゲ

Ninguta schrenckii menelcas FRUHSTORFER

北海道・本州に分布し、中部地方の山地には少なくない。県下には、木村春彦君の採集した神戸市多井畑(谷口和義:1938)をはじめ、須磨付近(北村達明:1935);灘付近(吉阪和親:1936)などの記録がある。もっとも中国地方の山地にも発見されているので、本県にもその可能性は考えられるが、神戸地方のものについては詳

以上の135種を科別に整理すると次のとおりとなる。

科名	筆者らの所蔵する標本によるもの	標本は所蔵しないが標本を確認したもの	記録によってはあるが確認できるもの	疑問種または同定誤りと思われるもの
セセリチョウ科	17	0	0	2
アゲハチョウ科	12	0	0	0
シロチョウ科	8	2	1	1
ウラギンシジミ科	1	0	0	0
シジミチョウ科	34	1	2	1
テングチョウ科	1	0	0	0
マダラチョウ科	2	0	1	0
タテハチョウ科	28	2	1	3
ジャノメチョウ科	13	1	1	0
計	116	6	6	7

末筆ながら、この目録を編むにあたって、白水隆著日本産蝶類分布表におうところが多いことを明記し、謹んで白水先生に厚くお礼を申しあげたい。

文 献

(*は直接見なかったものである)

- 赤井順孝:1934, 甲子園付近の蝶類目録, 昆虫界, 2(7), p.121~122
 東 正雄:1960, 六甲山系の迷蝶, 兵庫の自然, p.43
 * 遠藤 勉:1960, 氷ノ山採集記、捕虫網, (6), p.4~5
 藤平 明:1962, 南淡町産主要鱗翅目目録(自刊)p.11
 藤田悦久:1957, キベリタテハを関西で採集す, 新昆虫, 10(1), p.47
 井口宗平:1907, 兵庫県佐用郡産蝶類目録, 昆虫世界 11(9), p.418~420

細な記録を欠き、かつその例も少ないので、確実性が乏しいのではないかと考える。

2. ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* LINNE

アフリカや東洋熱帯地区からオーストラリアにかけて生息し、ジャノメチョウの仲間としては珍しく広範囲な分布を示すものである。わが国では、九州・岩手・青森県にも採集されており、その地域は22府県に及んでいる。いずれも散発的に発見され、本州に土着するかどうかは疑わしい。

県下では、神戸市内や六甲山麓に採集された記録があり、谷口和義(1938)は、193□年10月、(武庫郡)本山村〔神戸市〕の櫛林中に数頭を発見して、そのうちの1頭を採集し、また、柴内俊次・中畔史雄(1956)は、両君の知る2例を挙げ、1頭は六甲登山口近くにある柴内宅で、1頭は長田区〔神戸市〕の某地で採集したといっている。東正雄(1960)は、1955年8月、甲陽中学の伊勢田漱二君が夙川の堤防で、1956年の夏には宝塚中学生川合勲君が、同中学付近の武庫川原で、そして、1957年7月31日、甲陽中学の有田茂君が、西宮市御茶屋所町で、それぞれ採集していることを記している。

- *-----:1910, 西播の蝶類, 博物之友, 10(75), p.121~122
 * 今本哲男:1950, ルーミスシジミの多産地, Amateur Entomology, 1(1), p.9
 甚田竜太郎:1953, 兵庫県多紀郡蝶類目録, MDK News, (26), p.4~5
 * 佐川実太郎:1938, 岡本(六甲山麓)の蝶, 大阪府立北野中学校博物同好会々報(1), p.1~5
 加地早苗:1940, 最近の六甲連山の蝶類目録, 昆虫界 8(77), p.442~452
 加藤正世:1938, 西宮市で採れたスジグロカバマダラ 昆虫界, 6(48), p.219
 北村達明:1935, 須磨付近の蝶類, 昆虫界, 3(17), p.(以下p.11へ)

(以下 p. 55より)

- 323~325 ; 3 (21), p. 531
- 小林賢三 : 1929, メスシロキテフ兵庫県にて採集さる
Zephyrus, 1(4), p. 180
- 中国公一郎・吉阪道雄 : 1954, 六甲山蝶類目録,
MDK News(別刷), p. 1~9
- 柴田俊次・中畔史雄 : 1956, 神戸虫便り, 札幌昆虫同
好会々報, 2 (1), p. 3~15
- 白水 隆 : 1958, 日本産蝶類分布表 (北隆館)
- : 1959, 原色昆虫大図鑑, I (蝶之部) (北隆
館)
- 高橋寿郎 : 1941, 神戸産数種の蝶に就いて, 昆虫世界
45 (1), p. 28~29
- 田中 蕃 : 1957, 西宮で採れたリュウキュウムラサキ
MDK News, (46/47), p. 2
- : 1960, 兵庫県川辺郡猪名川町一帯の蝶,
Napi News, (37), p. 352
- 田中 保 : 1942, キベリタテハ六甲に産す, 昆虫世界
46, (11), p. 369
- 谷口和義 : 1938, 神戸産蝶類雑記, 昆虫界, 6 (55),
p. 761~762
- 八木典也 : 1960, 相生市付近の蝶類一覧 (自刊),
p. 1~8
- 山口福男 : 1957, 明石にメスアカムラサキ現る, 新昆
虫, 10 (12), p. 35
- 山本義丸 : 1958, 兵庫県氷上郡昆虫目録 (県立柏原高
等学校), p. 9~12
- 横山光夫 : 1954, 原色日本蝶類図鑑 (保育社)
- 吉阪道雄 : 1954, 京阪神蝶類目録, MDK News,
(別刷) p. 1~9
- * 吉阪和親 : 1936, 灘中学校付近の蝶類, (灘中博物研
究部), (5), p. 27~30 ; (6), p. 26~27